

令和4年度4月入学

大学院人間文化総合科学研究科（博士前期課程）入学試験問題

【一般選抜】

言語文化学専攻
日本アジア言語文化学コース

〔専門科目〕

試験日：令和4年1月29日（土）

注 意

1. この冊子には、次のとおり、2分野、合計5題の問題が綴じられている。
(総ページ数 — 7ページ)

A群 (A I ~ A IV)

B

試験開始に際しては、まず、上記のとおり全問題があることを確認し、脱落がある場合は、挙手により監督官に申し出ること。

2. 各受験者は、A群のうちからいずれか1題を選び、Bの問題と合わせて解答すること。
3. 解答に際しては、A・Bそれぞれ指定された解答用紙を用いること。
(裏面も使用してよい。)

なお、使用する解答用紙のすべてに受験番号及び氏名を記入すること。

4. 試験終了後、この冊子は持ち帰ること。

A I つぎに挙げるのは、大伴坂上郎女による『萬葉集』卷三・四〇一番歌である。これについて後の問に答えよ。

問題文は、著作権の関係で掲載しておりません。

問一 傍線部1「不知尔」について、諸本では「しらず」との訓もあるが、それ以外の、現在多くの注釈書類が採用する読み方を平仮名のみで記し、さらに品詞と活用形を記せ。

問二 傍線部2について、

(a) 左図は『校本萬葉集』の当該句に関する箇所である。「(に)」以下に示された諸本の訓および諸説における記述を、略称は用いず、正しく諸本名を補いつつ、わかりやすく説明せよ。

問題文は、著作権の関係で掲載しておりません。

(b) なぜ「はぢしつ」だというのか、本文の表現にそくして説明せよ。

問三 次に挙げるのは、四〇一番歌を承けての、大伴駿河麻呂の歌(四〇二番)である。

問題文は、著作権の関係で掲載しておりません。

(a) 「我妹子」とは誰のことか、具体的に記せ。

(b) 傍線部「結ひけむ標を 人解かめやも」をわかりやすく現代語訳せよ。

問四 四〇一番歌、四〇二番歌を通して、比喻されていることはどのようなことか、わかりやすく説明せよ。

問題文は、著作権の関係で掲載しておりません。

『古今著聞集』による

(注) 船岡——船岡山。現在の京都市北区にある。
齋院選子——賀茂齋院である選子内親王のこと。賀茂齋院は、船岡山の近くにある紫野齋院に居住していた。

問一 本文中の影印部分を翻字せよ。改行および漢字と仮名の区別はもとのままとすること。

問二 傍線部1について、「いとのもとには」とは、「花見にはむれて行けども青柳の糸のもとにはくる人もなし」(拾遺集・春・よみ人しらず)を指すものであるが、

(1) この「花見には」の歌の解釈を記したうえで、歌中に用いられている修辭を指摘せよ。

(2) 齋院選子は、どのような意図で「いとのもとには」と書いたのか、説明せよ。

問三 傍線部2について、

(1) 「人々の色なをり」の意味を簡潔に記せ。

(2) そのようになった理由を、本文にそくして説明せよ。

問四 傍線部3について「御用意なからんこと」を「はか」とは、誰がどうしたことか、簡潔に説明せよ。

問五 傍線部4について、「笙」がどのようなものであったかを具体的に明らかにしたうえで、現代語訳せよ。

問六 傍線部5「ことに叡感ありて」について、

(1) 「叡感」の意味を簡潔に記せ。

(2) どのようなことに対する「叡感」であるのか、本文にそくして詳しく説明せよ。

問七 賀茂齋院について説明したうえで、賀茂齋院に関連する文学作品について、具体例をあげながら知るところを述べよ。

A III つぎは徳田秋声「薺」の冒頭(第一節・第二節)である。これを読み、後の問に答えよ。

問題文は、著作権の関係で掲載しておりません。

問題文は、著作権の関係で掲載しておりません。

問題文は、著作権の関係で掲載しておりません。

問一 傍線部①「襟垢のこびりついた小袖や、袖口の切れかゝつた襦袢など」は、誰のどのような様子を描写したものか、説明せよ。

問二 傍線部②「静かな綺麗な二階の書齋で、温かさうな大振な厚い蒲團のうへに坐つて、何やら蒔繪をしてある自分持の蓆盆を引寄せた」という「友達」の様子は、何を表現していると考えられるか、説明せよ。

問三 傍線部③「聞きなれたこの里の唄や、廊下を歩く女の草履の音を聞いても心に何の響きも與へられなかつた」とは、「笹村」のどのような心情を表現したものと考えられるか、説明せよ。

問四 傍線部④「鍛冶屋からは、終日機械をまはす音が、切斷なしに聞えて來たが、笹村はそれを煩いとも思はなかつた」とは、「笹村」のどのような心情を表現したものと考えられるか、説明せよ。

問五 傍線部⑤「几帳面に掃除されたランプの灯も、不斷より明るいやうに思はれた」とは、「笹村」のどのような心情を表現したものと考えられるか、説明せよ。

問六 波線部「是迄長いあひだ厭々執着してゐた下宿生活の荒れたさまが、一層明かに振顧られた」とはどうか、説明せよ。

問七 徳田秋声について知るところを述べよ。

問八 本問題文で使用するところの「徹」は、現代日本文学全集18『徳田秋声集』（改造社、一九二八年）所載のものである。この叢書「現代日本文学全集」について知るところを述べよ。

A IV

つぎの㊦・㊧の間に、すべて答えよ。

㊦ つぎの文を読み、後の問に答えよ。

問題文は、著作権の関係で掲載しておりません。

(袁枚『隨園詩話』より)

注 ○多師是我師：取自《戲為六絕句》詩。原文是「別裁偽體親風雅，轉益多師是汝師」。

○牧豎：指放牛羊的童子。 ○隨園：袁枚的別墅名。 ○霜高：指秋空高爽。

(1) 傍線部①を書き下せ。

(2) 傍線部②の句をわかりやすく解釈せよ。

(3) 傍線部③を現代語訳せよ。

(4) 傍線部④の句について、

(a) 平仄を示せ。平声は○、仄声は●を用いること。

(b) 書き下せ。

(5) 波線部について、

(a) 「少陵」とは誰を指すか、名を記せ。

(b) 「非止可師之人而師之也」とはどういうことか、説明せよ。

(《汉语和汉语研究十五讲》より)

注：「*」は当該の表現が成立しないことを示す。

(1) 下線部 A を日本語に訳せ。

(2) 本文の内容にそくして、下線部 B について、

① (23-a1)と(23-a2)の“句法差別和语义差异”を説明せよ。

② (23-b1)と(23-b2)の、文成立の可否の理由を説明せよ。

㊦ つぎの文を読み、後の問に答えよ。

問題文は、著作権の関係で掲載しておりません。

B つぎの事項のうち、いずれか任意の五つを選んで説明せよ。なお、それぞれの解答のはじめに、何番の事項についての解答であるかをかならず明記すること。

- ① 続日本紀宣命
- ② 歌枕
- ③ 『延慶本平家物語』
- ④ 曲亭馬琴
- ⑤ 『花柳春話』
- ⑥ パンの会
- ⑦ 「荒地」(詩雑誌)
- ⑧ 中間小説
- ⑨ 定家仮名遣い
- ⑩ 位相語
- ⑪ モダリティ
- ⑫ 方言周圏論
- ⑬ 『爾雅』
- ⑭ 楽府
- ⑮ 『隋書』経籍志
- ⑯ 欧陽脩
- ⑰ 李攀龍
- ⑱ 劉慈欣『三体』